

帯広別院



真宗大谷派 (東本願寺)

主な教化事業

- 公開講座(毎月上旬)
- 親鸞講座(毎月下旬)
- 仏教暁天講座(7月上旬)
- テレホン法話
- 報恩講(10月27日～30日)
- 前住上人御命日(12・13日)
- 宗祖親鸞聖人御命日(27・28日)
- 定例法話(12日)
- 婦人会(6日)
- 修正会・彼岸永代経
孟蘭盆会

別院とは

真宗大谷派には、全国、海外あわせて55の別院があります。別院が「聞法の道場」であるという点では、普通寺院と同様ですが、しかし、殊に別院が設置された理由は、地方における教化活動の中心的役割をになうという点にあります。

したがって、そうした目的をもって設置された別院を護持するということは、まず自らが念仏の教えを聞きひらき、その教えを伝えていく願いに生きることを意味するのです。



真宗大谷派 帯広別院

〒080-0803 帯広市東3条南7丁目
TEL 0155(25)1122
FAX 0155(25)1124
テレホン法話0155(27)1313

私達の真宗

本宗	教派	宗祖	宗祖	正依の	本宗
山名	え	の著書	祖	經典	尊旨
真宗本廟(東本願寺)	真宗大谷派	本願を信じ、念仏申さば仏になる。	親鸞聖人	仏説観無量寿經	浄土真宗
			顯浄土真実教行証文類	仏説無量壽經	
				南無阿彌陀佛	



別院百年の歩み

西暦 和暦

主 な 記 事

- 一八九四 明治二七 小山恵超来帯、下帯広村番外地に草庵を開く
- 一八九五 明治二八 五峰賢道北海道集治監帯広分監教誨師に任命される
- 一八九六 明治二九 帯広村説教所入仏式
- 一八九七 明治三〇 山県良温十勝国布教担任を命ぜられる
- 一八九八 明治三一 小山恵超説教所を本山へ上納
- 「大谷派本願寺帯広説教所」として許可
- 西一条南十一丁目所在
- 「函館別院帯広支院」と称す
- 一九〇七 明治四〇 彰如上人御巡教 婦人法話会発足
- 一九〇九 明治四二 競馬場にて梵鐘鑄造
- 一九一二 明治四五 現在地、東三条南七丁目に移転
- 一九一八 大正 七 「大谷派本願寺帯広別院」に昇格

間口拾間
奥行拾八間
此建坪百八拾坪
外廊下貳拾坪余
計 貳百坪余

- 一九二二 大正一一 本堂建築工事（十勝監獄教誨堂を移転改築）
- 一九二九 昭和 四 遷仏遷座法要厳修
- 一九三五 昭和 一〇 本堂裏に旧納骨堂落成
- 一九三六 昭和 一一 太子堂奉讃法要
- 一九三七 昭和 一二 御殿新築
- 一九四〇 昭和 一五 戦死者追弔法要
- 一九四三 昭和 一八 金属製仏具供出
- 一九四四 昭和 一九 陸軍部隊本堂庫裏に充滿、法座開席不能
- 一九四七 昭和 二二 現如上人二五回忌
- 一九四八 昭和 二三 蓮如上人四五〇回御遠忌法要 梵鐘再鑄
- 一九五〇 昭和 二五 門徒会発足
- 一九五七 昭和 三二 幼稚園開園（「帯广大谷第二幼稚園」）
- 一九六六 昭和 四一 幼稚園改築「帯広東幼稚園」と改称
- 一九六九 昭和 四四 旧納骨堂会館庫裏落成
- 一九七二 昭和 四七 現在の幼稚園舎落成
- 一九八五 昭和 六〇 本堂修復
- 一九九〇 平成 二 新会館納骨堂落成
- 一九九三 平成 五 開教百年慶讃法要

本堂建築工事

当時帯広別院の堂宇は明治三十一年説教所として創設せられたるもので、その後、函館別院帯広支院と公称の時、及び彰如上人御巡教の折に本堂再建を企図したが、そのつど僅少の増築と修繕とに止まっていた。大正十一年頃の本堂は壁落ち棟傾き廉雑極まる建造物であり、捨置きしがたき事情に迫られ輪番はじめ有志の者の苦慮するところであった。

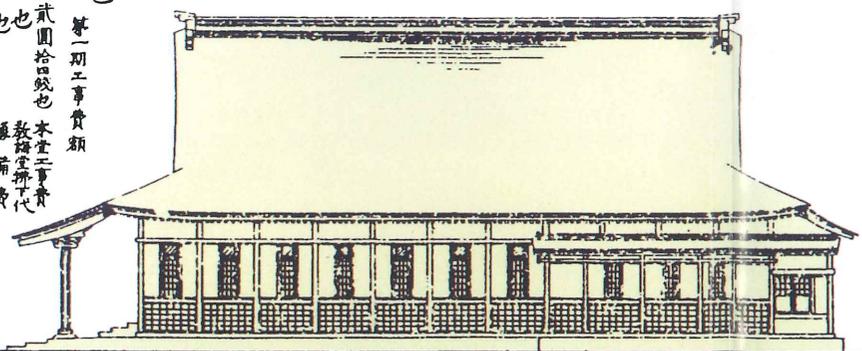
明治二十八年四月に開庁した北海道集治監十勝分監には教誨師として五峰賢道師が着任し教誨に携わったのを始め、以後当監の教誨師にはあいついで大谷派の僧侶が採用された。全国的にも浄土真宗の僧侶が、囚人の教誨にあたる例は多く、十勝監獄と別院とは密接な関係にあった。

このような関係から、十勝監獄の教誨堂改築の時、旧教誨堂の売払いを受けてこれを改築することになり、費用は比較的少額にして多年の本堂建築の念願がかなえられたのである。

現存する本堂は、その後の改修により若干の変容はあるものの、ほぼ十勝監獄時代の様子を保っている。現在本堂の後堂に使用されている床板は、厚さ二寸以上、幅一尺五・六寸、七間半に及ぶタモとセンの材である。当時の囚人たちによって挽き割られたものであり、カンナが十分に使えず手斧で仕上げたと思われる波形が今も鮮やかに残っている。これは十勝監獄当時の用材が現存し、確認できる稀有の実例といえる。

工事費
一 金 参 萬 圓 也
第一期工事費額
金貳万四千貳拾貳圓拾四錢也 本堂工事費
金貳千圓也 教誨堂併時代
金貳千圓也 孫備費
金八百七拾七圓八拾六錢也 事務費共納費

側 面 圖



正 面 圖

